

晩生種りんご熟度調査

12 つくる責任
つかう責任

10月5日、晩生種りんごの収穫前の熟度調査を本店で行いました。熟度調査の結果は、各品種の収穫時期の目安とし、りんごセンターへ入庫する期日を設定します。

りんごを担当している各地区の営農指導員7人が晩生種の「サンふじ」「有袋ふじ」「王林」のサンプルを持ち寄り、果実の硬さや糖度、りんごの断面にヨウ素液を塗り、ヨード反応を確認しました。



熟度を調査する営農指導員

米の収量・品質・食味を調査

12 つくる責任
つかう責任

10月13日と14日、黒石の育苗センターで令和4年産米の収量・品質・食味の調査を行いました。調査データは、来年産米の生産指導に活用します。

調査は各地区の営農指導員が試験圃場から「青天の霹靂」「まっしぐら」「つがるロマン」「はれわたる」の稲を持ち寄り、脱穀、もみすりの作業をしました。今後は全体の推定収量と品質や食味の要因分析をまとめます。



脱穀作業する営農指導員

援農ボランティア農繁期に協力

1 高齢を
なぐさ

10月29日、JAグループ4連が農業者支援事業の一環として実施している「援農ボランティア」を受け入れました。地元企業職員約40人が参加し、黒石地区と板柳地区のりんご生産者の園地で収穫作業を行いました。

参加者は「りんごが好きで農作業に協力したいと思い参加した。農家さんのお役に立ててうれしい」と話しました。生産者は「農繁期の営農ボランティアはとても助かる。今後もこの取り組みを継続してほしい」と話しました。



参加者にりんごについて説明する生産者（右）

食材寄付で地域貢献

2 食糧を
せむ

10月17日、一般社団法人みらいねっと弘前が取り組んでいるフードバンク事業を支援するため、食材の提供を実施しました。

食材は、JA管内で栽培された大根（1ㇿ／10本）、にんじん（1ㇿ／70本）、キャベツ（1ㇿ／8玉）、桃のジュース（1ㇿ／24本）各5ㇿを寄付。食材はこども食堂などに活用されます。

三浦正幹営農課長は「今後も農作物の提供などを実施し、地域貢献活動に努める」と話しました。



食材を渡す成田義仁専務（右）